

第5回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

生活困窮者自立支援を軸に 地域における生活保障を前進させよう

歓迎挨拶

通信 1-1



一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 **岡崎 誠也**(高知市長)

第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に全国各地から参加された皆様を心から歓迎いたします。

昨年、高知市での大会では、大変多くの関係者の皆様にご参加いただき、心より感謝を申し上げます。

6月の法改正の趣旨を踏まえ、困窮の原因となる社会的孤立を防ぐことや、関係機関のネットワークをさらに拡大していくことが求められています。

また、支援者自身の抱える課題も顕著になっていますので、本大会は、課題や壁にぶつかったときに、一度この場に立ち戻り、様々な人と交流し語り合うことで、新しい解決方法の知恵やエネルギーを補充し、また現場に戻っていく、支援者の「ベースキャンプ」として効果を発揮できるものになればと強く願います。

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 **宮本 太郎**(中央大学法学部 教授)

第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会によろこそ！
第5回となる今年の大会ですが、生活困窮者自立支援制度がスタートして初めての制度改正が行われた直後の大会です。地域で様々なかたちでこの制度に携わっている皆さんからみて、制度は期待される方向に発展しているか。ぜひともしっかりチェックしていただき、声もあげて行ってほしいと思います。

そもそもこの制度は、困窮と孤立をなくしていこうという地域の取り組みをもとに設計され、立ち上がった制度であり、そこから経験とエネルギーを吸収することで発展していく制度です。そして、この研究交流大会は、この制度を支える人たちがヨコのつながりを強めつつ、この制度に地域の経験とエネルギーを充当する場です。ぜひ議論と交流の輪を広げていってください。



一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 **奥田 知志**(NPO 法人抱樸 理事長)

皆さま！ よろこそおいで下さいました。心より歓迎申し上げます。困窮者支援に限らず大切なのは、「人と人が支え合うこと」だと思っています。どんなに素晴らしい制度も、どれだけ潤沢な予算も、結局は「人次第」。この大会の中心には「人」がいます。それはあなたであり、わたしです。人と人が出会い、語り合い、新たな人との出会いが押し出される。それが大会の開催意義だと思います。

今回も1,000人を超える方々が全国から集まってください

ました。現場や手法、考え方は、違います。だから出会う意味があります。どんどん出会い、どんどん議論し、そして何かあったら相談できる関係をつくりましょう。「その人がその人として、その場所で、その人らしく生きること。そのことで、あの人も元気になる」ために私は何をすべきか。この制度はどうなればいいのか。社会の在り方は・・・今年も出会いの中で学ばせてもらおうと思います！ 2日間よろしくお願ひします。

第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会開催に寄せて

駐リトアニア特命全権大使 **山崎 史郎**(生活困窮者自立支援全国ネットワーク前顧問)

第5回全国研究交流大会、まことにめでとございませう。大会の盛會を心からお祈りしています。

私が今赴任しているリトアニアをはじめとするバルト3国は、20世紀になって、ソ連、ナチス・ドイツ、そして再びソ連と、大国の支配を受け続け、1944年以降は、独立した国家は消滅し、数十万人がシベリアへ送られる悲劇を経験してきました。それにもかかわらず、バルトの人々は自らの国家の回復を決してあきらめず、独立への想いを代々つないできました。そのことがはっきりと表れたのが、1989年に起きた『人間の鎖』です。これは、エストニアのタリンからリトアニアのビリユニス

までの600kmを200万人のバルトの人々が、独立を求めて手をつなぎ合う、という前代未聞の出来事でした。その結果、1990年についに独立を回復し、今、国民はお互いに励まし合いながら、人権尊重を第一に、国づくりに取り組んでいます。

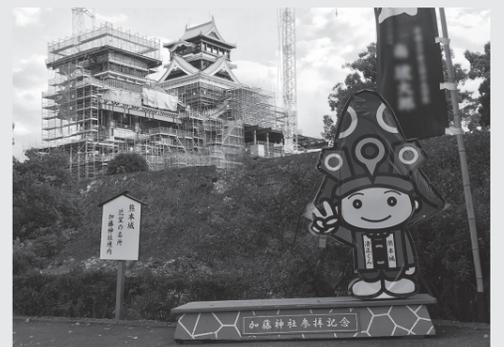
このように、一人ひとりでは解決できないことも、同じ想いを持つ者が「つながること」ができれば、社会を変えていく大きな力になります。この研究交流大会が、全国で生活困窮者自立支援に取り組んでいる皆様方にとって、同じ想いを持つ仲間同士が「つながり」、そして、新たな出発を確かめ合う場となることを、心からお祈りしています。

皆さん、頑張ってください。



熊本 PHOTO

熊本駅前には球磨民謡「おもやん」の像が。ぜひご覧ください！



熊本城、復興にむけて修復中です

1日目見どころ案内



基調講演

「横結の仕組みと人財」

地域資源の「横結」とそれを可能にする「横串人財」の大切さを考え、共生支援の可能性を論じたい。生活困窮者の定義に「地域社会の関係性」が入ったことの意義にも触れたい。求められている「横串人財」は、AIに置き換えられないSI（社会的知性）の持ち主になるだろう。2040年に向けて、縮小と効率化が強調される中で、地域に根を張る充実した共生社会の形成を展望したい。

●コーディネーター：大森 彌／東京大学 名誉教授

鼎談

「地域共生社会を問いかけて」

今回の鼎談のテーマは「共生社会とは何か」ということです。そもそも社会とは、人と人が共に生きていることを指す言葉だと思えます。しかし、現実の日本社会は、決してそれが自明の事柄とはなっていないようです。孤立や無縁が大きな問題となっています。一方で、あまりに強い承認欲求は「個」としての存在をないがしろにしてしまう心配もあります。同化でもなく孤立でもない。そんな人と人との在り方を登壇者の皆さんと語り合えればと思います。今回の法改正では、「地域社会からの孤立」が基本理念として加えられました。この意義も深めたいと思います。

●パネラー：奥田 知志／生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事

国会議員からのエール

改正「生活困窮者自立支援法」成立に尽力した国会議員の方々が登壇し、制度にかかわる皆さんへの応援の気持ち、熱い想いを語ります。

【登壇者】

自由民主党	鬼木 誠	衆議院議員
公明党	山本香苗	参議院議員
立憲民主党	川田龍平	参議院議員
国民民主党	足立信也	参議院議員

徹底討論パート1

「新生活困窮者自立支援法で何が変わったのか」

全国の生活困窮者自立支援の現場の実践と、制度はこうあってほしいという願いが結実した「新生活困窮者自立支援法」。

新法に込められている意味と、これを踏まえてこれからの実践をどう進めるべきか、各事業分野を開発、リードしてきた第一人者が語り合い、2日目の分科会への問題提起を行います。

●コーディネーター：

和田 敏明／ルーテル学院大学 名誉教授

徹底討論パート2

「生活支援と生活困窮」

ここでは、熊本県西原村、滋賀県東近江市、三重県鳥羽市の3つの地域に登場いただきます。生活困窮者自立支援は「分権的・創造的」、すなわち、地域のニーズに応え、地域の社会資源を生かすことが重要だと言われます。災害からの復興や地域の疲弊、地域産業の振興など様々な地域の課題を抱えながら、「支えあい」のある地域づくりを丁寧に作り上げていった実践例を紹介します。「わが地域でもできるぞ」と元気の出ること請け合いのセッションです。

●コーディネーター：

村木 厚子／生活困窮者自立支援全国ネットワーク 顧問

フロアディスカッション

制度改正により、生活困窮者自立支援制度もVer.2に入りました。対人支援サービス事業として、「支援の質」を高めていくための現場からの工夫、課題についてのご意見をいただければと思います。

個人的には、心理的な要素（社会での信頼やストレス）が人間の行動に与える影響を研究しています。現場での経験を研究に生かし、そして研究が制度や現場を改善する視点で議論したいと思います。

●コーディネーター：

駒村 康平／慶應義塾大学経済学部 教授

生活困窮者自立支援全国ネットワーク 会員募集

「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、生活困窮者自立支援法に関わる事業を担う人材のネットワークであるのみならず、すでに地域において生活困窮者支援に携わってきた人々、当事者、学識経験者などが、職種や所属等を超えて広く出会い、共に学び、共に支え合い、支援者としての資質の維持・向上や関係者間の連携の確保、あるいは関連政策の推進を図っていくことを目的としています。

制度が充実することは必要ですが、制度だけが強化されるのではなく、社会そのものが強化されることが重要です。「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、人材育成と共に新しい社会創造を模索する場所として、生活困窮者支援に関わる人々が出会い、苦労を分かち合い、支え合い、学び合い、その中で新しい社会の創造への胎動が始まる場となることを期待します。

◎主な活動

- (1)「全国研究交流大会」の開催
- (2)支援員に対する「実践的研修セミナー（仮称）」の開催及び情報交換等
- (3)行政等に対する政策提言など
- (4)その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

生活困窮者自立支援全国ネットワークにご入会いただいた場合は、会員特典として参加費から3,000円を会費として振替させていただきます。大会参加費が7,000円となります。会員には月1回メールで生活困窮者支援の情報やシンポジウム等のお知らせをメルマガでお届けします。ぜひこの機会に会員にご加入ください。※すでに会員の方は、大会参加費より今年度の年会費として年会費3,000円を振替させていただきます。

会員申し込みについては、生活困窮者自立支援全国ネットワークホームページをご覧ください。

●生活困窮者自立支援全国ネットワーク

<http://www.life-poor-support-japan.net/>

学割のご案内

ご要望にお応えして、大会参加費に学割を設けました。当日受付カウンターで学生証をお見せいただければ、一般参加費10,000円のうち3,000円を返金いたしますので、学生の方はぜひご利用ください。



大会に先立ち、大会講師、生活困窮者自立支援全国ネットワーク役員・社員、関係者による前夜祭「初代生活困窮者自立支援室長 熊木正人氏に聞く困窮者支援と立ち上げへの熱い想い」（聞き手：生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 奥田知志）が、熊本県立劇場大会議室にて開催されました。その後は懇親会を開催し、大会に向けた熱い想いを再確認しました。

大懇親会のご案内

本日18時30分より、「熊本県立劇場内大会議室」にて大懇親会を開催します。すでに300人以上のみなさまよりお申し込みいただいております。受付の混雑が予想されますので、お時間に余裕をもってお越しください。交流、ご歓談、大抽選会など楽しい企画がもりだくさん！講師や参加者の皆さま同士の交流の場として、お楽しみください。

なお、多数のお申し込みをいただき定員に達しましたので、当日の申し込みを承ることはできません。ご了承ください。



赤い羽根福祉基金

